



問

片岡政徳

保健福祉課は狭く機能的でないと思われる。両支所には利用できる施設がある。広く便利な施設で住民サービスに務めては。

両支所の議場を倉庫でなく活用できる部屋にしてはどうか。

十二月議会で、両支所とも耐震診断を受け、今後の在り方を考えるとの答弁であったが。

答

町長

保健福祉課は大崎診療所を掌握しており連携が絶対不可欠で、現在の場所が最適と考える。

今後、組織、人員などの変動の場合は必要に応じて考慮する。

池川支所は五十八年完

手狭な保健福祉課

どうにかならないか

答

現在の場所が最適

成で耐震診断は必要ないと訂正する。

答

仁淀支所長

傍聴席は物置きで利用し、議場は、会議室とし



手狭な保健福祉課、議会は再三改善を指摘しているが（大崎）

て有効活用に努める。

答

池川支所長

床は階段状で特徴があり、現在は、暫定的に物品の保管場所に利用。今後、必要が生じた場合を考え改修しない。

問

片岡

救 急 車
更新の時期は

答

まだ使える

問

片岡

吾川出張所の高規格救急車は、13年7月に導入、走行距離23万kmを越えている。

人の命を運ぶ救急車は優先されると考えるが、本部へ要望を。

県内消防署の救急車の更新状況を聞く。

答

町長

池川の健康福祉課の業務は総合支所で行い、地域包括支援センターは吾川保健センターに移動するが、池川保健センターの今後の利用は。

答

町長

社協が一定期間利用する。その後は検討していく。

問

片岡

変更などについて地域へ説明は。

答

副町長

今回は地域への説明はなかったが、今後は、十分留意し進めていく。

22年度に更新を検討している。現在の車両で緊急搬送に支障なく、早期更新の状況でないと考えるが、地域住民の生命を守る車両で、重要性は十分認識している。改めて要望し、充実した体制を整えていく。

答

総務課長

高知市消防署は9年、中芸は10年、安芸市、嶺



高規格救急車（高吾北消防）

北は12年、安芸市、土佐市10万km、室戸、高幡は25万kmで、県下の平均は9年となっている。



「かわまた橋」 の架けかえを

答 検討する

問

坂本 伝一

昭和三十七年三月に架設された、桐見川・白石川線の「かわまた橋」は老朽化が進み、危険性が高いが。

答

町 長

この林道は木材の搬出など林業活性化、当町と越知町を結び地域にとっても重要な幹線道路であるため、現状の橋梁調査を行い改良の方向で検討する。



老朽化が進んだ「かわまたばし」早期の架けかえが望まれる（織合）



桜を中心に 広葉樹10万本植樹を目指せ

答 住民主導が望ましい

問

大原儀郎

町は、杉・ヒノキの過植だ。高齢化などで田畑も荒れつつある。町の将来を見据えて、桜を中心に広葉樹10万本植樹を目標に花の咲く明るいまちづくり事業を推進しては。

久万高原町柳谷地区は7年前から山桜の植樹を始め、現在1万3250本を定植し苗木3000本を育苗。奈良県吉野地区が桜3万本と言われている。

柳谷地区は5万本を計画し日本一を目指している。本町は隣接しており、呼応して10万本を目指したなら県境を越えた日本一の花の咲く地域になる。予算を大いに活用し、町を挙げて取り組んではどうか。

答

町長

人はみな、花が好きだ。花の咲くまちづくり事業は大変素晴らしいと思う。10万本という大変広い土地がある。町有林を一度に全部切るとは難

しい。行政主導で事業を推進するより、地域や住民が自ら地域活性化を考え、実行する住民主導が望ましい。

町内にはしだれ桜やひょうたん桜、上久喜の桃など花の咲く頃にはたくさんの人々が訪れている。気運が高まれば町も大いにバックアップしていきたい。

答

副町長

国の景気対策で、地域雇用創出事業費などを予算化している。町もできる限りのバックアップができるのではないか。



しだれ桜 (別枝)



ひょうたん桜 (桜)



桃 (上久喜)



親水公園 (北浦)

満開

「カーボンオフセット」の実用化を図れ

問

大原

町には2万5000ha以上の植林がある。森林のCO₂吸収数値は1ha当たり、年8CO₂tと環境省が認定している。本町はNEDOの委託事業で木質

答

検討チームを編成し対応

ガス化発電と木質ペレット実用化事業に取り組んでいる。

木質エネルギー実用化を推進し、これに伴うカーボンオフセット実用化を目指しバイオマスタウン構想を立ち上げ、認定を受けるべく専従チーム

答

副町長

を設置し積極的に取り組んでいく。まずは庁内に検討チームを編成。必要に応じて専従の担当職員を置くことを検討したい。

議長一ロメモ！

物ごとの是非や優劣を決める方法として多数決がある。

国会や地方議会ではこの多数決を採用していることから、与党と野党が存在し、相反した意見となるのが通常である。

地方自治体の最終意志を決定する議員の一票は絶大で、町の将来を大きく左右することとなる。

住民の意志を行政に反映させるのが議会の役目だが、自己保全や利益誘導等、長い年月を経て定着した悪しき慣習は、議員の自律心を奮い、行政の追認機関となってしまう。

賛否には住民の立場で臨むべきであり、全員与党、全員野党が地方議員の鉄則である。

民主主義の原点は多数決である。・・・が

“多数決必ずしも正しからずや、少数意見の中に正論あり”と言いたい。

若藤 敏久

ソニアは大丈夫か

〔答〕 閉鎖か継続か瀬戸際



閉鎖か継続か瀬戸際に立っている（株）ソニア（佐川）

問

大原

（株）ソニアの経営は、議会で改善と責任を指摘されたが、今後の対応は。

答

町長

仁淀川流域の今後のために大型工場を残したいが、資金繰りや、収支計画の在り方によっては、工場の閉鎖か継続できるか、厳しい瀬戸際に立たされている。



補助金はついていたのか

答 準備はしたが計画は見送った

森山の集会所の建築で、町長が「予算がついていたが、地元の議員が反対したため、取り止めた」という発言で、地元の議員として地域の要望に対し、反対する意思もないことを申し添え質問する。

集会所は県の補助金がついていたか。

森山の地域集会所の建築について、私は反対したのか。

要望書の提出後に話をしたか。

答

企画課長

地域集会所は、集会所周辺の複数集落を含めた、拠点施設とすべく町がその費用を全額負担する。地区集会所は町が8割

の補助を行う。森山集会所は、地域集会所と地区集会所の両面で検討した経緯がある。議員と直接話をしたことはない。

県に予算の要望書を提出する準備を進めていた記憶があるが、調整の関係で、計画を見送った。

答

総務課長

アンケート結果は、コンピューターの設置、風呂など、贅沢な内容のものであった。議員が反対したかどうかは、記憶にない。

問

岡田

要望に行つた際に、メモ書きで地域をまとめると書いている。補助金について、県に聞くと、町から要求は上がっており、県は予算をつけていないとの事だが。

答

企画課長



もち作り

ら必要性がないとの意見もあると聞いている。問題を残すことがあつてはならないと断念した。岡田議員の行動から到底無理と判断した。

問

岡田

地域集会所は、地域の同意を取り、県に要望書を提出し、決定後、予算化により建設されるので、県から補助が下りていたということは失言である。今後地域の発展につなげてほしい。

答

町長

森山地区より度々陳情受け、慎重に検討している。議員より周辺地域か

答

町長

できるだけ地域の要望に応えるよう努力する。

防災無線

問

岡田良成

議会の一般質問を、防災無線で放送できないか。

答

副町長

一般質問のやり取り

は、議会だよりで広報している。授業中の生徒や入院中、介護支援を受ける方などに配慮がいるため、希望者は、傍聴してほしい。

問

岡田

区長会の意見を集約してほしい。

答

副町長

防災無線では課題が多いのではないかと意見は承っております。



関心の高さが伺えた（議場）



要望が出て3年たったが

答

任期中に建てたい

問

若藤敏久

住民から要望書が提出されて三年が経過したが、いまだに具体化されていないのはなぜか。

答

町長

建設予定地の是非や地域内の不要論から予算化は見送ってきたが、地区から強い要望もあり、任期中にできる限りの協力をする。

地域の同意が必要か

問

若藤

要望書は保留し地域で検討中とのことだが、採択しても良いのではないか。それとも地域全員の同意が必要なのか。

答

企画課長

地域の拠点となる施設として積極的に進めたい。地域の同意は明文化されたものはない。



森山集会所

充分と考えているのか

問

若藤

森山地区は町内でもいち早く自主防災組織を立ち上げ、その活動は各地域の見本となっている。災害等有事の際の避難施設として現集会所で充分と考えているならその理由はない。

答

副町長

通常の会合には支障ないが、大規模な災害などの避難場所としては耐震構造も配慮されておらず、充分な施設とは考えていない。

早期着工を

問

若藤

住民や議員が声を大にしても執行部にその気がなければ馬の耳に念仏。政治の主人公は住民であることを今一度、認識すべきではないか。森山地区は仁淀川町を売り出す販売活動など、老朽化した集会所で子どもから高齢者まで活発な活動をし、町や地域に貢献している。是非早期着工を。

答

副町長

敬老会は地区を挙げて開催し、健康活動は周辺地域や社協と連携していると聞く。また防災活動も対岸の高瀬地区と協議して行なわれており、地域の重要な拠点と考える。将来多目的に使用できる施設として検討する。



3月議会には大勢の傍聴者、森山地区の